2022 ADMISSIONS OFFICE

DOSHISHA UNIVERSITY
Voice of AO students

AO入試合格をめざすみなさんへ

AO受験生の声

同志社大学
Doshisha University

同志社大学のAO入試とは ―

同志社大学のAO入試は、学力のみを重視する選抜方式ではありません。同志社大学で学びたいという意志を持ち、かつ学力試験では評価できない多様な能力、大きな可能性を秘めている学生を積極的に迎え入れようとする能動的な選抜方式です。同志社大学のAO入試は、いわゆる一芸一能入試とは大きく異なります。一芸一能でいかに優れていても、総合的な評価の結果不合格になる場合もあります。つまり、AO入試は知識の多寡だけを問うのではなく、ましてや一芸一能だけを評価するものでもなく、一人ひとりの能力や個性と真の学力を適切に評価し、学習意欲や将来的な可能性までをも含めて総合的に評価する選抜方式です。本学で勉強することを強く望み、独自の考えを持ち、自ら問題を発見し、それを解決する能力を有している生徒、すなわち“自ら学び、自ら考える”自治自立の人物を求めています。同志社大学のAO入試は、大学教育を受けるに十分な基礎学力があり、出願資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる公募制の自己推薦入試です。第一次審査(書類)と第二次審査で合格を判定します。提出書類をひとつひとつじっくり時間をかけて審査し、さらに直接会ったうえで、意欲・能力・適性・目的意識や将来性等を多面的・総合的に評価し、合格者を決定します。

入試結果（2022年度入試）

学部	学科・コース	募集人数	志願者数			第1次審査合格者数			最終合格者数			最終倍率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
商学部	商学科 フレックス複合コース	10名	10名	11名	21名	7名	8名	15名	6名	4名	10名	2.1
文化情報学部	文化情報学科	15名	25名	38名	63名	9名	27名	36名	3名	16名	19名	3.3
生命医科学部	医情報学科	2名	4名	3名	7名	3名	3名	6名	1名	2名	3名	2.3
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	4名	25名	16名	41名	4名	4名	8名	1名	3名	4名	10.3
合　計		31名	64名	68名	132名	23名	42名	65名	11名	25名	36名	3.7

各学部それぞれの、伝えたいこと、求めること

商学部 Faculty of Commerce

商学科 フレックス複合コース

国内外のビジネスで活躍

自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成する、同志社の精神。商学部ではこの基本理念に基づいて、商学に関連する知識を背景に、国際社会において「良心を手腕に」さまざまな問題を解決できる人物の育成を目指しています。

求める学生像

- 自由な発想を持ち、高い語学力を備えている学生
- 問題意識に基づいて行動する意欲にあふれている学生
- 日本や世界で繰り広げられるビジネス活動に対して大いに興味と関心を抱いている学生

文化情報学部 Faculty of Culture and Information Science

文化情報学科

文理の枠を超えた柔軟な発想力

文化と人間に関する捉えがたい現象に対し、文理の枠にとらわれない柔軟な発想により、データサイエンスの知見と文化領域の幅広い知識に基づいて、科学的探究を行うことができる。本学科ではそんな人物を養成します。

求める学生像

- 人間をとりまくさまざまな文化現象に対する幅広い関心と探究心を持つ学生
- 文理の枠にとらわれず新しい価値を見つけようとするチャレンジ精神がある学生
- 共同作業を通して問題発見・問題解決に取り組む意欲がある学生
- バランスのとれた基礎学力と総合的な理解力を持つ学生
- 文化と人間に関わる知識を活用して社会に貢献したい学生

生命医科学部 Faculty of Life and Medical Sciences

医情報学科

情報という視点で分子・生命・ヒトに迫り、未来の医療技術を創る

生命および医療に関連する物理学、化学、脳神経科学など幅広い分野について学びます。さらに、情報工学・電子工学の知識と技能を総合的に習得し、脳の情報処理機構の解明、化学・電子技術を用いた生体情報の取得、それらの医用機器開発への応用など未来を開拓する志を持った人物を養成します。

求める学生像

- 医情報学科の教育研究に対応できる十分な学業成績を修めている学生
- 何かに真剣に取り組むことで優れた業績を達成した学生
- 目標を成就する積極的かつ自発的努力をもって医情報学科の教育目標に対して取り組むことができる学生

スポーツ健康科学部 Faculty of Health and Sports Science

スポーツ健康科学科

専門領域とその周囲まで好奇心いっぱい

健康とスポーツ活動を中心に、それらを取り巻く社会環境に関する知見や理論、スポーツ健康科学を総合的・体系的に修得。そのうえで、さまざまなフィールドにおいて、専門的な立場から健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に貢献できる。そんな多様な人物の養成を目的としています。

求める学生像

スポーツを「する・観る・支える」のいずれかにおいてスポーツに深く関わった経験を踏まえて

- スポーツ健康科学に関する専門的知識・技能を修得するために必要な基礎知識や外国語の読解・表現能力などを有する学生
- 既成の事実や価値観にとらわれることなく、自ら課題を見出し、探求できる学生
- 様々な立場にある人々の意見を取り入れ、相互理解を深めようとする学生

※2023年度の募集日程や出願資格等については、募集要項でご確認ください。

AO TALK

～AO入試座談会～

Theme 01.

入試のきっかけ・事前準備

01. 自分にしかない強みを見つけ、合格をめざすのがAO入試。

関：みんなはなぜ、AO入試を受験しようと思ったの？

谷口：私は公募制の推薦入試を受験する友達の影響が大きかったよ。元々一般入試で同志社を受験しようと思っていたけど、チャンスが増えるなら挑戦してみようかなって。

片岡：僕は高校まで海外で暮らしていて。日本の大学でAO入試を受験する日本人の先輩に、AO入試で評価される点など、選抜方法を教えてもらったのが、受験のきっかけかな。

杤岡：僕は、オープンキャンパスでAO入試を知ったよ。高校まで部活動を頑張っていたし、その経験をアピールできるなら自分にはぴったりだな、と感じて受験を決めたんだ。関さんは？

関：私は関東出身だから、説明会で初めてAO入試について知ったんだよね。推薦入試は元々考えていなかったんだけど、これなら私でも受けられると思って、チャレンジしたよ。高校3年生の夏に受験するって決めたかな。みんなはどうだった？

片岡：僕は高校2年生の終わり頃には受験しようって決めてた。

谷口：私は高校3年生の8月。お盆休みにAO入試を知って、受験を決めたよ。出願書類の締切日が迫っていたから、準備が大変だった（笑）。

杤岡：僕も高校3年生の夏に受験を決めたんだけど、9月のはじめまで部活の大会があったんだ。だから、部活動と並行して出願書類を準備したよ。

02. 自分の夢や興味と向き合って、志望学部を決めよう。

杤岡：志望学部はどうやって選んだの？

谷口：私はオープンキャンパスでたまたま受講した、文化情報学部の模擬授業がとてもおもしろくて……。人の表情や行動について、文理融合で研究する授業だったと思う。人の感情とか、表情といった心理情報に、データ分析でアプローチするところに魅力を感じたよ。

片岡：僕の夢は起業家になること。その夢を叶えるために必要な知識を学べる授業が、同志社の商学部で受けられると知って、志望したんだ。

関：私は語学にも興味があって。国際色豊かな同志社の生命医科学部なら、理系の知識を磨きつつ、外国語もしっかり学べそうだと感じたのが決め手かな。杤岡くんはどうだった？

杤岡：僕はずっとスポーツをやっていたから、スポーツ健康科学部に入れば、理論と根拠に基づいて自分の競技力を向上させられそうだなと思ったんだ。そしてオープンキャンパスで、健康増進や医療の観点からもスポーツを学べると知って、ますます興味が湧いたし、絶対ここで学びたいと思うようになったよ。

谷口：みんな、自分の夢や興味としっかり向き合って、志望学部を決めたんだ。やっぱり「この学部に入りたい！」って気持ちが一番の原動力になるから、学部選びは重要だね。

POINT

- ✓ 高校3年生の夏から準備を始めた受験生も。
- ✓ 志望学部を選ぶときは、自分の夢や興味を明確に。

AO入試学生座談会ムービー
入試方式・学部選び編
右記のコードからご覧いただけます。

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
杤岡 武奎さん　2年次生

文化情報学部
文化情報学科
谷口 晴菜さん　2年次生

商学部
商学科 フレックス複合コース
片岡 一喜さん　2年次生

生命医科学部
医情報学科
関 寿菜さん　4年次生

Theme 02.

AO入試に向けた対策

01. 自分の経験や展望をしっかり把握し、素直に伝えることが大切。

片岡：AO入試を受けるにあたって大切なのは、自分のアピールポイントを見つけて、志望理由を固めることだと思うんだけど、みんなはどうやって自分の強みを探ったの？

杤岡：僕は100人くらい部員がいる部活のキャプテンを務めていたから、その経験を活かそうって、割とすっと決まったかな。たくさん失敗もしながら培った統率力が、自分の一番の武器だなと。

谷口：私も、部活でキャプテンをやってたことをアピールしたよ。最初は自分の強みってなんだろう？って結構悩んだんだけど、結局高校3年間一番頑張ってきたのが部活だったから。あとは周りの人に自分の長所を聞いたかな。そこで見えてきたありのままの自分を、嘘はつかずにしっかり伝えることが大事だと思う。

関：最初は「自分に秀でたところなんてないかも…」って、私も不安になった。でも本当の自分で勝負するのが大切だよね。

片岡：やっぱり自分を素直に表現するのと、入りたい理由をまっすぐ伝えることが一番大事だよね。僕の場合、商学部の求める学生像に自分が当てはまる気がしていて。僕は海外で生活もしてたし、起業したいっていう強い意欲もあるから、そこをしっかりと伝えるようにしたよ。

02. エッセイや自己紹介書類はのびのびと自分を表現するチャンス。

関：第一次審査では、エッセイを提出するよね。私は医療をテーマにしたから、絶対に間違った情報は載せられないと思って、色々文献を参照しながら書いたんだけど、みんなはどうだった？

谷口：私は「親知らず」をテーマにエッセイを書いた（笑）。

関：とても自由だね！ どういうことを書いたの？

谷口：「人と被らない内容にしよう」と思っていて。親知らずの抜歯って怖いけど、“とりあえずやってみる”ことで得られる気づきがあったんだ。だから、不安があっても、とにかくチャレンジしてみることが成長につながるんだっていう内容にしたよ。

杤岡：テーマって意外と身近なところから見つかるんだね！ スポーツ健康科学部は、<スポーツに関連したテーマ>と、決まりがあるんだ。僕は自分の部活動経験をもとに「目標達成へのアプローチの仕方」という題名でエッセイを書いたよ。既存のルートにとらわれない自分なりのやり方で目標達成に取り組んで、その結果どうなったかをまとめたんだ。

片岡：商学部も<ビジネスに関連したテーマ>の決まりがあるから、僕は「日本のアニメ産業の課題と対策」をテーマにした。書くときは、主張がぶれないように気を配ったよ。エッセイ以外にも、第一次審査では自己紹介書を提出しないといけないよね。

杤岡：意外とあれが難しいんだよね。僕は基本、部活動のことを書いて、家族にチェックしてもらって提出した。あと、自己PRの一環で、これまでに読んだ本や音楽について書くところもあるから、そこでは部活の顧問の先生が書いた論文について触れたかな。

谷口：私も部活での経験についてまとめて、自己PRでは昔行ったコンサートで感動した体験について書いたよ。最後は学校の先生にチェックしてもらってから提出したと思う。関さんと片岡くんは？

関：私は語学力のアピールと、ゆくゆくは海外で研究に取り組みたいという、将来の展望も書くようにしてた。自己PRのところは、純粋にこれまでに読んで好きだった本について書いたよ。

片岡：商学部は自己紹介書もだけど、英語による自己PRの録画資料も作らないといけないんだ。主に自分の話をする3分くらいの動画なんだけど、簡単に編集を加えて、見る人を飽きさせない工夫をしてた。僕は経営学の本を読んでいたから、自己PRではそのことに触れて、将来の夢につながる内容に仕上げたんだ。

03. 志望の軸となる想いを確立し、メリハリを大切に準備に取り組む。

谷口：受験の準備を進めるなかで、苦労することもあるよね。私はAO入試と並行して一般入試の勉強もしていたから、その両立が大変だった。エッセイの準備と勉強の時間をしっかり自分の中で切り替えて、メリハリをつけるようにして対策してたよ。

杤岡：自己紹介書類やエッセイを書き上げるためには、まずは自分を振り返ることが大切。自分の体験に基づいて、取り組んだことに対してどんな結果が出たか、なにが大事だと思ったかを整理することで、スラスラと書類を仕上げることができたよ。それに、自分の取り組んだことと、同志社大学で学びたいことが直結していたから、主旨をぶれさせることなく作成できたかな。

関：そうだよね。自分はこういう意思をもって、同志社大学に絶対入りたいって思う自分の軸が大事。

片岡：うん。あと、勉強ばっかりしていると、どうしても気が滅入るから、切り替えは本当に大切。僕は煮詰まったらサイクリングをして、リフレッシュするようにしていたよ。

04. 第二次審査では、教授との対話を楽しみながら、自己アピールを。

片岡：第二次審査には面接があるけど、みんなは練習どうしてたの？

谷口：しっかり練習したのは2〜3回。学校の先生に協力してもらってた。あとはイメトレを繰り返してたかな。ガチガチに対策を固めるというより、聞かれたことに素直に答える準備をしてたよ。

片岡：僕は逆にめちゃくちゃ練習してた（笑）。父に教授役をしてもらって、毎日1時間、100問くらいの仮想質問に答えるかたちで。

杤岡：スポーツ健康科学部は、面接に加えて、プレゼンテーションもあったから、その準備もしてたよ。気をつけたのは、相手の興味を惹きつけつつ話すこと。プレゼンにエンターテイメント性をとり入れたり、自分なりに工夫してみたんだ。本番でも、教授方の目を惹きつけることに成功したよ。

関：私は聞かれそうな質問をリストにして、答えを用意したかな。実際の面接は、雰囲気が柔らかくて、思ったほど緊張しなかった！

谷口：そうそう。私も、練習の方が緊張してたくらい（笑）。

片岡：僕は商学部に入るきっかけにもなった、憧れの教授が面接官だったんだ。面接会場に入った瞬間驚いたけど、教授のゼミに入りたいという想いも伝えながら話すことで、全然緊張せずに楽しめた。

杤岡：僕もプレゼンがすごく楽しかったのを覚えてる。教授たちがしっかり話を受け止めながら会話を広げてくれるから、緊張せずに全力を出すことができたし、本当にいい経験になったと思う。

POINT

- ✓第一次審査の課題であるエッセイや自己紹介書類は、自分の視点を活かしつつ、正確な情報を書くよう心がけよう。
- ✓準備期間は勉強と息抜きのメリハリを大切に。
- ✓第二次審査は自分の想いを伝えられるよう、自然体で挑もう。

AO入試学生座談会ムービー 第一次審査編 01
右記のコードからご覧いただけます。

AO入試学生座談会ムービー 第一次審査編 02
右記のコードからご覧いただけます。

AO入試学生座談会ムービー 第二次審査編
右記のコードからご覧いただけます。

Theme 03.

同志社大学とAO入試の魅力

01. 自由な学びを推奨する学風が、将来の可能性を広げてくれる。

杤岡：AO入試は、一般選抜入学試験より合格発表が早いけど、合格が決まってから入学まで、どんなふうに過ごしてた？ 僕は高校では部活動ばっかりやってたから、アルバイトをしたり本を読んだりして、自分の知見を広げるようにしてた。

片岡：僕もアルバイトに挑戦したり、学部に関連するような本を読んで、将来の夢をより明確にすることに時間を充てたかな。

谷口：私も社会勉強の一環として、アルバイトにチャレンジしたよ。

関：学部から入学前に課題を与えられていたから、それに取り組んだり、自分の弱点を整理して復習したりしていたよ。いざ大学に入学してみてどう思った？

谷口：学びの興味が似ている人が集まっているわけだから、将来の夢とかの話で、すごく盛り上がるよね。でも画一的な雰囲気じゃなくて、本当に色んな人がいて、刺激をもらえる。

関：そうそう。海外から来た人も多いし、いろんな視点を知れるよね。

片岡：みんな「志をもった、自由人」って感じ。それぞれが自分の意見をしっかりもっているから、雑談するだけで新しい発見がある。僕は卒業してから起業しようと思っていたけど、同じ授業を受ける学生のなかには、高校生ですでに起業を経験している人もいて。自分ももっと頑張らなきゃ！って励まされたよ。

杤岡：お互い高め合えるような交流ができるよね。考え方とか、知識が倍、倍、と広がっていく感覚というか。

関：学部ごとに同じ分野に興味をもった人たちが集まるなかで、それぞれがいろんな意見をもっているから、授業で1つのテーマに対して議論がふくらむのも楽しい！

谷口：うん。授業も本当に楽しいよね！ それに、幅広い授業のなかから、興味のある分野を自主的に履修して、自分を高めていけるし。

杤岡：確かに。学ぶことに制限をかけない風土があるよね。入試の段階でも将来についてある程度イメージできていたけど、学びを深めるたびに展望が変わっていって、まだまだ自分は伸びるなって。

谷口：うん。学ぶことで将来の選択肢が増えていくよね。

関：私も同じ。高校生までにはなかった視点がどんどん芽生えてきて、それを踏まえて将来を考えられるようになった。

02. 入試を経て、自分を知り、自分に自信をもてるようになった。

片岡：授業のなかでAO入試の経験が活きてるなって思う瞬間も多いよ。自分の考え方を一度入試で確立してるし、エッセイを書いた経験もあるから、レポートも書きやすいなって感じる。

関：分かる！ 経験がちゃんと活きてるよね。

杤岡：自分の人生を振り返るというか、整理する作業が受験を通して一度できたのは、人生にとっても大きなプラスだね。

谷口：入学してからも、自分自身の興味や関心が分かっているから、こんな授業を受けよう、っていうのも決めやすいしね。

関：自分の方向性が明確になっている分、学びへの意欲も増して、人一倍、学生生活を楽しめている気がするよ。

片岡：AO入試の良さって本当にさまざま。それぞれの得意分野で受験できるし、合格できたことは、自分のポテンシャルを大学から肯定してもらえたってことだから、自信がつくよね。

谷口：合格したとき、めっちゃ嬉しかった（笑）。

関：うん。自分を信じてよかったなって、心から思えるよね。

POINT

- ✓ 学びの幅が広いから、入学後もどんどん成長していける。
- ✓ 学生同士が切磋琢磨し、高め合える環境が整っている。
- ✓ AO入試を経験したことで、自信をもって自分に向き合えるように。

AO入試学生座談会ムービー
キャンパスライフ編
右記のコードからご覧いただけます。

商学部
商学科 フレックス複合コース

片岡 一喜さん 2年次生

AO入試の思い出

海外生活が長かった僕の前には、入試にあたって「日本語」という壁が最初に立ちはだかっていました。読めない漢字が多いと気づいて日経新聞のコラム欄を写したり、小学生用のドリルに取り組んだのも、今ではいい思い出です。起業家になりたい、そのための知識を同志社大学で得たいという強い想いがなによりの原動力となり、地道な努力を続けられたのだと感じています。

現在の学び・将来の展望

起業するために必要な経営の知識をしっかりと身に付けることが今後の目標です。それだけでなく、4つのサークルに所属したり、直接経営とは関係ない講義を履修できる環境も大学の魅力です。加えて、さまざまな価値観をもった友人からもらえるいい刺激を糧に、日々成長できるような4年間を送りたいです。

Message for you

準備を怠らず、自分の得意分野を磨き、志望理由を明確にすることが、合格をつかむカギ。最高のキャンパスライフが、あなたを待っています！

文化情報学部
文化情報学科

谷口 晴菜さん 2年次生

AO入試の思い出

8月の終わりに受験を決めたので、準備の時間があまりなくて大変でした。エッセイを独特のテーマにしたので苦労もしましたが、今思えば個性を出した部分が評価されたのかなと感じています。部活や勉強、暮らしのなかで培ってきたすべての経験を活かせるのがAO入試。だからこそ、自分らしさを武器に合格できたのだと感じています。

現在の学び・将来の展望

文化情報学部の授業の特徴は「文理融合」であること。高校まで文系だった私にとって、理系の思考を磨く授業はとても新鮮で、発見の連続です。理系・文系それぞれの得意分野を活かして仲間同士助け合えるのも、文化情報学部ならではの魅力。映像やデザイン制作など、気になる分野が幅広いので、興味の赴くままに学びを深めていくのが今後の目標です。

Message for you

自分が今まで頑張ってきたことに、自信と誇りをもって、最後までやり切ってください。応援しています！

生命医科学部
医情報学科

関 寿菜さん 4年次生

AO入試の思い出

AO入試を受けると決めたものの、自分のアピールポイントってなんだろう、人より秀でた部分なんてないんじゃないか、と悩んだ時期もありました。でも高校までに頑張ってきた語学や、生命医科学部で学びたいという希望が自分らしさのカギだと気づけました。それ以来、自分に自信をもてるようになったのでAO入試を経験して本当によかったと思っています。

現在の学び・将来の展望

もともと学びたいと思っていた医療分野の知識と語学力、両方の力を伸ばすことができています。またこれからの時代、医療の現場でもITの知識は必要となるので、プログラミングの授業で情報系の基礎知識を身に付けられたのも、たいへん価値があったと思っています。また、医療分野とプログラミングを学べたことで、情報系の作業が楽しい！と知ることができました。将来はその2つを活かせるような仕事に就きたいです。

Message for you

AO入試では、自分に自信を持つことが大切です。最後まで諦めず、自分を信じて突き進んでください。

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科

杤岡 武奎さん 2年次生

AO入試の思い出

高校まで、キャプテンとして100人規模の部員を引っ張ってきた自信があったので、主にリーダーシップや問題解決能力をアピールポイントに掲げていました。AO入試は、人生のなかで起こったどんな出来事が自分を成長させ、強みとなっているのかを振り返るいい機会となりました。入試で確立した“自分の軸”を大切に、大学生活を送っていきたいです。

現在の学び・将来の展望

スポーツには、娯楽や競技のイメージをもっていましたが、健康の増進など、医療にもつながる要素があると知り、スポーツにより魅力を感じて、受験を決めました。現在も、幅広い分野の授業が展開される同志社大学で学ぶなかで、自分の知らなかった学びや考え方を得て、将来の可能性が広がりそうだと感じています。大学4年間を通して、広い視野で物事を考える力を培っていきたいです。

Message for you

今までの努力や経験が、自信となって受験を支えてくれるはず。取り繕うことなく、自分を振り返ることが重要だと思います。頑張ってください！